

## 市民のひろば編集サポーターが 下鶴市長にインタビュー



私たちが聞きました



松下さん 岡元さん 中村さん

※感染症対策を行い実施しました

### まずは新型コロナ対策と子育て支援

**サポーター** 100のマニフェストにびつくりしましたが、まず力を入れて

取り組みたいことは何でしょうか。

**市長** 新型コロナ対策は最優先の

大きな課題。しっかり取り組みます。

そして、子育て支援。特に待機児童の解消ですね。子育て中のお母さん、お父さんには当然大事ですし、鹿児島に帰りたいという人の後押しになるポイントだとも思います。人口減少に少しでも歯止めをかけることにもつながります。

テレワークなどで働く人が住む場所を選べる時代がやってくるので、「選ばれる鹿児島市」を作るため、子育て支援の充実に力を入れていきたいです。

### 若者に「選ばれる」まちに

**サポーター** では、若い人が働きたい、戻ってきたいと思ってもうにはどうすればいいでしょうか。

**市長** オンリーワンの技術を持つ企業が結構あります。待遇もいいのに知られていない。情報発信が求められています。また、給料などの待遇面

以外の部分で、通勤の楽さとか、食事のおいしさとか、大きな魅力があることも。でも、所得は上げていかないと、と思います。



### これからの産業振興、2本の柱

**サポーター** 注目している産業、事業分野はありますか。

**市長** 観光とICT(情報通信技術)の2つですね。

桜島、錦江湾、豊かな食をはじめとする、鹿児島にしかないもの。これをめがけて、国外からも多くのお客さんに来てもらい、お金を使ってもらおう。そういう観光が1つの柱になると思っています。

もう一つはICT。東京や大阪など、大消費地へ物を作って運ぶには、運賃などで不利です。データであれば、究極的に言えば運賃がゼロなので、世界中を相手にできます。



### 今こそ発信！物と情報は動かせる

**サポーター** 鹿児島市の魅力を発信していくためのアイデアはありますか。

**市長** 1つ目は、インターネット動画などの情報発信です。新型コロナ終息後に、外国人観光客などに対して、鹿児島市に行ってみようという熱量をどれだけ上げられるか、これが向こう1年の勝負。人は動けないですが、物と情報は動かせる。市の特産品を売ったり、情報発信したりすることで、大きく地域差がつく

と思います。

2つ目は、県外就職率が高い鹿児島ですが、それは裏を返せば、東京や大阪などにたくさんセールスマンがいるということです。県出身の人たちを通じたPRなどにも、さらに力を入れていきたいですね。



### 実はこれが大好きなんです

**サポーター** 市長が好きな食べ物、を教えてください。

**市長** 私はよく「だいやめ」をするので、焼酎に合うものを好んで食べます。県外からお客さんが来たときは、鳥刺しとキビナゴの刺身を振る舞います。さつま揚げも好きですね。

あと、自分で作るぐらい甘いものも大好きです。今は時間がなくてできないですが、ベルギーワッフルを作ったときは、大変でした。バターを練り込んだり、発酵させたり。でも、私が作ったものを食べさせられた人は、もう作るなと言うかも(笑)。



### 子どもと過ごす大切な時間

**サポーター** 休日はどうのように過ごされていますか。

**市長** 子どもの誕生日前は本を読むことが多かったのですが、今はもう真っ先に子どもと遊びます。一緒に積み木をしたり、絵本を読んだり、滑り台で遊ぶのを見守ったり。旅行も好きです。旅先では、鹿児島に持って帰れるアイデアや参考になるものを探しています。



### みんなでわくわくできる場を

**サポーター** スポーツ観戦などもお好きだと聞いていますが。

**市長** スポーツ観戦ってエンターテインメントなんですよね。飲み食いしながら楽しめるお祭りみたいな。海外に行ったときは、必ずスポーツを見るようにしています。

例えば、ルールはよく分からないけど、なんか楽しいからきた、ご飯を食べにきたとか、そこまで行くのが理想ですね。若い人も高齢の人も含めて、お祭りの場、みんながわくわくする場を、鹿児島市にもつくってきたいと思っています。



## 【市長プロフィール】

- 1980年** 谷山の自動車工場の長男として生まれる  
一生懸命働く父の姿に「現場で頑張っている人が報われる世の中になりたい」と政治家への道を決意  
和田小学校、ラ・サール中学校、ラ・サール高校、東京大学法学部卒業
- 2004年** IT系コンサルティング会社で大手企業の企業改革に従事  
「ITを活用して便利な社会をつくる」ことを経験
- 2011年** 31歳で県議会議員初当選(2020年まで3期)  
超党派の勉強会「全国青年都道府県議会議員の会」で会長を務めた



わくわくする鹿児島市を  
つくっていきましょう

